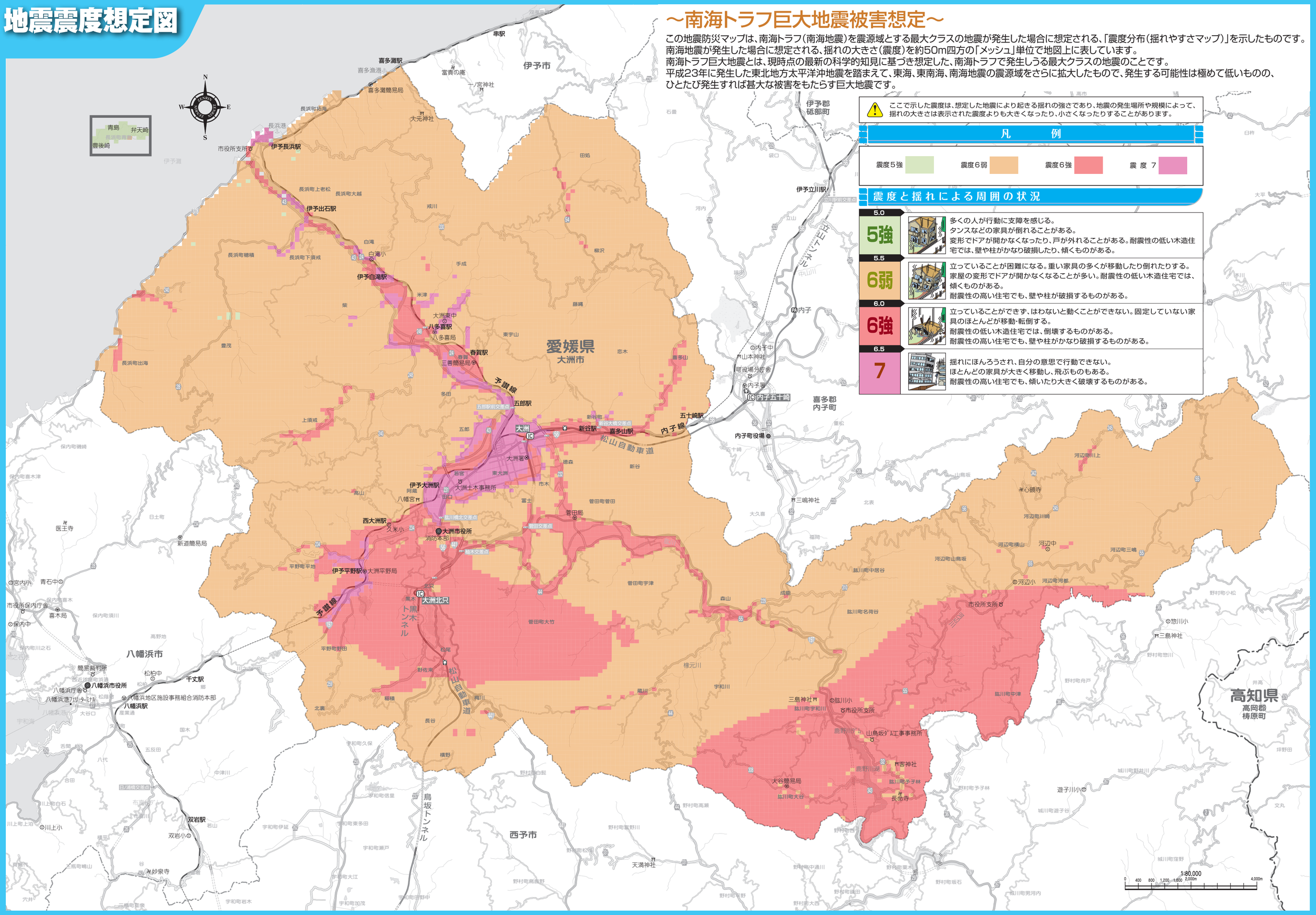
地震震度想定図

～南海トラフ巨大地震被害想定～

この地震防災マップは、南海トラフ（南海地震）を震源域とする最大クラスの地震が発生した場合に想定される、「震度分布（揺れやすさマップ）」を示したものです。
南海地震が発生した場合に想定される、揺れの大きさ（震度）を約50m四方の「メッシュ」単位で地図上に表しています。
南海トラフ巨大地震とは、現時点の最新の科学的知見に基づき想定した、南海トラフで発生しうる最大クラスの地震のことです。
平成23年に発生した東北地方太平洋沖地震を踏まえて、東海、東南海、南海地震の震源域をさらに拡大したもので、発生する可能性は極めて低いものの、ひとたび発生すれば甚大な被害をもたらす巨大地震です。



ここで示した震度は、想定した地震により起きる揺れの強さであり、地震の発生場所や規模によって、揺れの大きさは表示された震度よりも大きくなったり、小さくなったりすることがあります。

凡　例

震度５強　震度６弱　震度６強　震　度　７

震度と揺れによる周囲の状況

5.0 5強
多くの人が行動に支障を感じる。
タンスなどの家具が倒れることがある。
変形でドアが開かなくなったり、戸が外れることがある。耐震性の低い木造住宅では、壁や柱がかなり破損したり、傾くものがある。

5.5 6弱
立っていることが困難になる。重い家具の多くが移動したり倒れたりする。
家屋の変形でドアが開かなくなることが多い。耐震性の低い木造住宅では、傾くものがある。
耐震性の高い住宅でも、壁や柱が破損するものがある。

6.0 6強
立っていることができず、はわないと動くことができない。固定していない家具のほとんどが移動・転倒する。
耐震性の低い木造住宅では、倒壊するものがある。
耐震性の高い住宅でも、壁や柱がかなり破損するものがある。

6.5 7
揺れにほんろうされ、自分の意思で行動できない。
ほとんどの家具が大きく移動し、飛ぶものもある。
耐震性の高い住宅でも、傾いたり大きく破壊するものがある。